

鉄道ピクトリアル

1969年 4月号 Vol. 19 No. 4

<特集>交流電気車

国鉄の交流電化は試作車を含めてわずか14年にしかならぬが、ついに新幹線電車にまで発展した。この間の目まぐるしい発展のあとをふりかえってみよう。

■表紙 「交流電化のパイオニア」(ED9121)………日立製作所提供

■カラー頁 「東北本線を走る月光型」……………編集部撮影

■グラフ

<交流電気車特集>

951形出場	編集部	11
交流機関車の歩み〔1〕〔2〕	沢柳健一・伊藤昭・桜井良彦 ・藤井信夫・佐藤謙・石田和明・杉田肇・石川伊巳・国有鉄道	12
交流区間をゆく〔1〕〔2〕	伊藤昭・沢柳健一・藤井信夫 ・桜井良彦・石田和明・藤江幸太郎・中島宏	16
交流電車〔1〕—新幹線・特急車両—	神川義尊・吉田博重・村上勉・伊藤昭・永沢明	44
交流電車〔2〕—急行車両—	加藤寛一・伊藤昭・成瀬伸治 ・遠藤洋一・藤井信夫・田中正之・梅村俊樹・石田和明	46
交流電車〔3〕—通勤車両—	伊藤昭・手塚一之・沢柳健一 ・東端夫・三神康彦・河昭一郎・岸幸男	48
新雪の磐梯山麓をゆく(2頁大・解説79頁)	伊藤昭	50
交流電車〔4〕—特殊車両—	沢柳健一・小林磐生・日立製作所	52
菜の花畑(第12回鉄道写真コンクール作品)	山脇三男	43
営団地下鉄5号線	帝都高速度交通営団	54
近畿日本鉄道〔4〕	藤井信夫	56
西武A・Sカー新製	西武鉄道	58
トピックフォト (四国・九州・関西・中部・関東・各地だより)		83

■本文

<交流電気車特集>

交流電化採用の憶出	島秀雄	4
商用周波数交流電化発祥地ヘンタール線	中川浩	5
これからの中流電気車	猪野淳之助	7
交流機関車発達概史	杉田肇	19
ABB(空気シャンク器)について	安達信夫	25
交流電車発達概史	沢柳健一	26
異周波区間の直通運転について	真宅正博	33
交流電気車泣き笑い	川添雄司	35
交流電化による誘導障害と対策	平松和雄・稻田修	38

今月の話題・営団東西線3月29日全通	編集部	3
書評@「トンネル100年」	和久田康雄	32
鉄道事始めなし〔26〕「石炭撒水のはじめ」	浦川耿介	59
営団東西線全通	里田啓	60
西武鉄道「ASカー」について	杉山新一	65
私鉄車両めぐり〔78〕「近畿日本鉄道」(4)	野村董	68
都営無軌条電車の16年〔下〕	今城光英	75
質問に答える・鉄道の話題		78・79
第14回鉄道写真コンクール募集		80
車両の動き・2月のメモ帳		81・82
読者短信		91
T T Kだより・後部車から		94



営団東西線3月29日全通

帝都高速度交通営団は、このほど国鉄に地下鉄東西線東陽町—西船橋間15.4キロの開業を3月29日にしたいと申入れ、国鉄もこれに同意した。これによって現在荻窪—東陽町間で行なわれている国電中央線・東西線との相互乗入れは、同日から荻窪—西船橋まで延長されることになる。しかし、東西線の国電津田沼乗り入れは、総武線複々線工事の遅れや国鉄線の輸送要請などで4月8日から行なわれる。すなわち、千葉方面から都心乗り入れの一一番乗りは営団が先行することになるという珍らしいケース。

東西線の西船橋延長によって西船橋一大手町間は快速(西船橋—東陽町間ノンストップ)で22分、各駅停車で32分となり、国電の西船橋—東京間が秋葉原乗換時間5分を含めて41分なのにくらべて、ボスターどおり約20分短縮される。また運賃も西船橋一大手町間70円(通勤1カ月定期1,420円)に対し、国電利用の西船橋—東京間は4月からの新運賃(予定)では100円(同2,640円)となり時間・運賃ともに東西線に軍配がある。

千葉鉄はアンケート調査などから1日35,000人が国電から東西線へ乗換えるとみており、3倍を越える総武線の朝の通勤ラッシュは戸戸平井間で12%程度緩和されるとふんでいるが、営団側では52,300人の転移組を当てこんで、なかなかの強気を示していて興味が深い。

〔表紙〕「交流電化のパイオニア」
日立製作所提供

ED9121〔作〕 作並 '64.12
スピードグラフィックス タイム1/60 紋り4
エクタクローム

〔カラー頁〕「東北線を走る月光型」
編集部撮影
はつかり2号 2022M 583系13連
松川—金谷川間 '69-2-25
マミヤC200 80mm タイム1/250 紋り4~5.6
エクタクロームディライト

TETSUDÔTOSHO KANKOKAI
New Kokusai Bldg. Marunouchi
3-4, Chiyodaku, Tokyo/Japan